

速記録

昭和五七年一月一日
第 回 公 口 頭 弁 判 論 日

事件番号 昭和五六年()第四二一〇号

被告本氏

人名

堀

日光

被告代理人(松井)

あなたの経歴に因——とお尋ねいたしますが
あなたはこの大学の何学部をいつ頃
に卒業になりましたか。

昭和四四年三月大阪大学基礎工學
部機械工學科を卒業しました。
卒業後(とうり)職業をなさっておりますが
職歴を説明して下さい。

昭和四四年四月に敷島紡績株式

裁判所

会社に入社をして、主に研究開発
関係の仕事をしております。主とし
て織維機械の計測機器であるとか
自動化機器の研究開発及びその
事業化の仕事をしております。

現在もそのお仕事をしておりますが、
ええ。

次にあなたのSF作家にふて伺いますか
いつ頃興味を持って、という活動をし
ておりますか。

十六くらいからSFに興味を持ちま
して、昭和三七年頃高校生の頃です
が東京と大阪にありますSF同

人誌に加入をいねし、作品を
 著者、始めました。昭和四五年SF
 マガジンの六月号に「イカルス93異」と
 いう作品が掲載されました。二れが
 デビュー作になっております。それ以後
 主にSF専門誌を中心に作品を書
 いてきております。著書としまし
 ては昭和五四年に早川書房から出
 ました「太陽風文点」、昭和五五年に
 作品社から出ました「エネルギイ救世
 作戦」、昭和五六年に徳間書店か
 ら出ました文庫本「太陽風文点」
 早川書房の「梅田地下オデッセイ」

その年に徳間書店から出ました
共著ですがSF改造二人旅という本
昭和五七年に集英社から「恐怖症」と

いう本をお版しております。

あとは本をおいてその以外に雑誌に
いろいろ書かれて来ているわけですか。

主に雑誌を中心に仕事をしております。
雑誌の方の活動の方が多いというのと
ですが、

ええ。

雑誌はいろいろ会社のいろいろ雑誌
にいろいろ書かれてこられたのか。

主としてSF専門誌ですがSF

マガジン「奇想天外」という雑誌「SF室
石」SFアドベンチャー」という雑誌に作品
を載せております。

後に提出する丙オ六号証を示す。

これはという目的で書かれた書類です。
か。

これは私のデビューから昭和五十年
四月一五日までの著作をリストにし
ておきます。

この作成した日付けはこの日付に作成した
のに間違ひありませんか。
はい。

五七年一二月六日ね

ええ。

換甲才ニ号一証の三一七頁を示す。

ここに著作者学歴というところで、あなた
S F 作家としての略歴が書いてあります
か、この通りに間違ひありませんか。

間違ひありません

後に提出する丙才七号一証を示す。

これはたれが作成した書類ですか。
私が作成しました。

作成月日はいつですか。

昭和五七年四月一日です。

この書類にはどのようなことか書かれて
いますか。

「太陽風交点」に關する詳細な事實の経過を書いておきます。

こういう書類を作成しようといふことであなたに作成をした動機といふのはどういふところにあるわけですか。

今回の裁判で準備書面とか証言等を聞いておきますと明らかに事實に反することであるとか、事實が非常に曖昧なとか大変多いのでとつと具体的に詳しい事實を裁判所の方に知っていただくと思ひましてこの書面を作りました。

この丙才七号証を見ますと、曰時をい

か特定されて詳細かつ具体的に書かれ
ておるんですか。これはどういりものを
参考にして作られたのんですか。

これはいつも私の持ち物としてありま
す手帳とか、たえず人毛を取ってあり
ます。京大式カードといひんんですか。
葉書大の大きさのカードとか、し毎日
つけてあります。日記とか、会社の業

務日記などを基に作成しました。

そう、基と云ったのは日記とかカードにはどの
ようになっていますか。

特に感想とか書いてありません。ほ
んどは具体的な事実を書いてあります。

まず、例えはいつどこでなれと云って
 どのようにならなれとか、どのようにな
 らなれとか、電話もかけなれとか、かかつてきなれとか、
 どのようにならなれとか、どのようにな
 らなれとか、仕事をしなれとか、具体的な事、実に
 重点を置いて書いておられます。

普通の人が日記をつける場合、主観
 的な感情を書くので、あなたの日
 記とかには、そういうことは書いておられ
 ません。

ほとんど書いておられない。

いつどこでなれと云うのは、具体的な
 事、実に中心となつて書いておられる。

リ。

そりす。

両方七号証の内容については間違いない
りませんか。

間違ありません。

一応この訴訟の核心である「太陽風交点」
にふいて聞いて下さるが、ある「太陽風交
点」の単行本にふいて聞かされたが、最初
早川書房の今岡さんとあなたとの間で
「太陽風交点」という二つの話題にのぼっ
たのはいつごろという時ですか。

初めて出版の話が来たのは昭和
五二年七月二九日です。それから私が

会社の仕事で東京都の青梅市の方
 に出張しまして。その帰りに新宿
 の友人の作家の山田正紀さんと今
 岡さんと三人で会いまして。食事を
 したことがあります。この時の話題
 の中で、今岡さんの方から大分作品
 にもとまっていたから、そろそろ本
 にもとめたりという話という話
 がありました。一冊に何回くうの
 原稿がたまっていたから本にもとめよう
 というんでは、むしろ作品を
 セリクトして例えは宇宙小説は
 かりで一冊に「た方かいんしやかい

たろうかというのを私が言いた
して、確かに処女出版というのと
なり作者の個性があらわかい、た
ろうかというので、それは一応
宇宙小説ばかりで、ハートカバ
ーといふ進めようかというのと
話にのぼったことを覚えてありま
す。

二回目にそんな話があったのは、いつ
頃か。

やはりその年の一月二日、す
れども、同様に出張のついでに東
京を通過することがありまして、やはり

山田正紀さんと今岡さんと会おう
 といひ話になつておりまして、洪
 谷で会ひました。この時に早川の
 校正係の長坂さんといひ方も一宿
 に来られまして、四人で食事をし
 てたんぢやうか。この時にも同じよ
 うな二とか話題にのほりまして、
 いふれ宇宙小説ばかりハートカバ
 ーといひ話が出た。
 そつと。

この昭和五二年度は、この話の時以外
 に、今岡さんとの間で何かそつといひ話
 が出た二とかありませんか。

この二回おけです。

昭和五二年度は、その単行本に「い」は、そのおまき立ち消えになつてしまつたのであります。

そうです。

翌昭和五三年の三月ころになつて、単行本の話から今岡さんとの間で話題にのぼつたことがあります。

昭和五三年三月十六日ですが、これはS下マカシン五月号に掲載予定の「梅田地下オキシセイル」といふ原稿を送りまして、これは何回かに分けて送つたのであります。その最終命令を送つたといふ

車絡を電話でいじましたか。その時
フイに電話で、結婚した直後でし
たから、二れを機会に自分としては
作品集をまとめたいという希望を
伝えました。そして五月中くらい
に原稿を直して送って見てほしい
という返事がありました。

それであんなは原稿を送りましたか。

六月五日だと思いきや「時間礁」とい
う原稿と「迷宮の風」、「電送都市」と
この三編にフイに改稿した原稿を
いれました。それから「熱の檻」という
作品にフイには雑誌のコピーを取

りおして、それをいれおした、それ
以外の六編にフイエはS Fマカジン
に載った原稿として使ってほしいと
いう手紙を添えおして、速達で送
しおした。

そり送ったという原稿を今岡さんが受
取ったと思ひます。か、そり連絡はあり
ましたか。

三日ほど経ってやはりS Fマカジンの
原稿のことで電話がありました時に
原稿は受取りました。それで秋くらい
に発行になるでしょうという電話が
ありました。

五三年秋ころには発行になるだろうと。

はい。

五三年八月三一日にあつた今周さんと電話したとこがありあすか。

はい。

どういふより電話のやりとりでしたか。

この時の電話は九月上旬に送る予定

定めたところ下マカジンの用紙のエア

はい、そんな事情で遅いといふ

二とで連絡を行なうわけですね。

この時の話は今月上旬に海外出張

の電話が入りまして、これ一人で

行きます。現地で技術指導をする

という二とで、仕事の進行かとい
うふうに行なわれるか、合からないの
で、帰国の日程が決まっていけない。
それから九月中旬に初めの最初の予
備が生まれる予定があります。こ
れが生まれると、しばらくはなか
原稿が書けなむという二を他の人
からも聞いておりあつたので、そ
ういふ事情があるのと、一〇月とい
うのは会社の決算月に存りまうと
いふことも、会社の仕事か、忙し
なむと、九月、一〇月、はとこも
原稿が書けなむ状態では

あり、それ以外の仕事もほとんど受け
いぢうのむと（う）事情を電話で説
明しました。

昭和五三年八月三十一日以降、昭和五三年
度に「太陽国交点」の単行本の二とに關
して今岡さんと電話のやりとりとか
ありおしたか。

八月三十一日の電話で、三月一日ほど
前に送ってありおした「骨折星雲」と
いう短編を収録したうと（う）かという
話がありおして、「熱の檻」という作品
が少しニースが違うので、これと入
れ替えてほしいと私が言いました。

三一日以降。この昭和五三年度において
今岡さんと太陽風交点¹にふれて話をし
たことがあるか。

それ以降はありません。

五三年九月ころか一〇月ころ、太陽風交
点¹について今岡さんと電話したことが
ありあつたか。

ありません。

この年はそれで終つたわけですか。
そうですね。

最初の話だと、五三年秋ころ発行さ
れる予定だと。こういふ二とあつたよね。
はい。

発行されまーしたか。

発行されておりました。

発行されたの事情とか。今岡さんから
来たことかありまーすか。

ありまーせん。

翌昭和五四年
一月末ころ。小松左京さんに会ったこ
とありまーすか。

これはSF作家グループの旅行で
海の方に行ったことかありまーす
その時に小松さんから、おれ本は
おれのかという話かありまーす
今岡さんの方に原稿を預けた

まあ、にあって、ソ、ん、い、け、れ、と、も、ど
う、も、ハ、ー、ト、と、い、う、よ、う、な、も
の、で、な、か、い、か、お、版、は、難、し、い、ん、じ、や
あ、い、い、ろ、う、か、と、い、う、よ、う、な、こ、と、で
私、が、そ、う、言、い、お、し、た、ら、う。早、川、で、お
な、い、ん、で、あ、れ、ば、ど、い、か、お、版、社、を
紹、介、し、て、あ、げ、る、と、い、う、ろ、う、な、話
か、あ、り、お、し、た、ら、う。

曰、に、ち、は、い、つ、か、買、え、て、お、り、ま、す、か。

一、月、二、八、日、を、す。

あ、あ、た、と、い、は、早、川、か、う、あ、な、見、込、み、か
あ、け、れ、ば、小、松、さ、ん、に、ど、も、お、願、い、し、て、他、の
お、版、社、か、う、あ、い、い、と、い、う、気、持、を、持、っ、た

のびすか、

はい。

それで、

翌月の二月二日です。これ

ソフトマガジニに載せようというので

今岡さんと話し合っている時です。

厚福を最初に褒めてから、

以上経っておりまして。これとい

て出版の気配が強いわけですね。

それまでの経過というものが、今岡さん

という担当者とは個人的なレベルで

それ以外の雑誌の関係の話のつ

いひとか、そういう二つで進んで

在りしより、何かの都合で
ないことかあるんじゃないかという
気がしませんでした。もう早川の方へ集
り気になりなり、原稿を引揚げてい
る所かと申しました。

そうして、今岡さんはどう説明を
しなされたか、

二の時、眉村卓さんの「渾身の光輪」
の出版が遅れていて、これに伴って進
行が遅れていふので、もう少し待って
ほしいという事で、それでは
いつごろ発行されるでしょうかと
尋ねました。毎年夏にも早川さん

左アという書店のキャンペーンが行な
 われるので、この時期に合わせて発
 行されるという返事がありました。
 五四年八月ころに発行されると
 はい。

このころまでのあなたと今岡さんとの
 話のやりとりでは、あなたの気持ちとし
 ては、早川の事情によるは、こういふ本
 が発行されることもあなたにやないかと
 いう気持ちも抱いたのですか。
 はい。

もし今岡さんから、あなたは早川書店の
 都合で、あなたは駄目になったあと、あなた

お言われ在場合、あなたの方はどう
しようもない状態だったのですか。

仕方ないと思ひました。

早川書房におけるといふのは、
おたいてい本が発行されるかといふこと
をあなた説明を受けたことはありま
すか。

いえ、ありません。

早川書房の担当者の責任とか権限
二れかといふものに属するとか、あな
たといふ考えますか。

特に責任者がおられず、といふこと
は、
過いといふことは、私は知りません

でした。

早川における各社員とか会社の社長とか重役とか編集長とかいろいろいると思ふが、そういう人達の責任や権限の如何なるところがあつたかといふことが、いました。

いえ、知りません。

今更の五四年二月二日の日更の電話のやりとりというのは太陽風文点の二とを目的として電話のやりとりはあつたのですか。それともあつたか別の雑誌に掲載してソノ二とに關しての電話のやりとりのついでに、ちやうと

太陽風交点の話をすると、うんとで
今話のやりとりがあったか、とっちで
すが。

すべて他の用件がありました。雑
誌掲載の件とかの電話のやりとり
のふいに作品集の話がそこあり
ました。

五四年五月になって、太陽風交点のことに
関して電話が入ったことがありました。

五月六日夜八時ごろ、今岡さんか
電話がありました。この時、おやつを
作品集のことがひきかきという連
絡をいたして、話を解説にまで話

をしまーて、私とーは小松さんに
 書いてほしいけれとわ、此ーい人
 ね、かゝり書いてくれるね、うかと言ひ
 まーね、今岡さんの方から、堀
 さんのためね、ね、書いてくれる
 人、いや、あ、かと思ふと、今岡さん
 の方から頼んむ、みろ、という話に
 なりあーね、強いて装丁に、ついても
 話をしまーて、今岡さんの方から
 角田さんという人に依頼しては、どう
 ね、うとうとい、話がありあーて、
 誌掲載の時、か、加藤直之さんに頼
 む、二とか多かつた、ね、で、ひきね、う

加藤さんには願いたいと言いま
し、それでは加藤さんに話して
みるという話がありました。

タイトルの二とはどうなりましたか。

タイトルにフいは、私は「太陽
風交点」という名前が気に入って
ソマリエにも、太陽風といううちはあま
り一般的な言葉ではないので、本の
タイトルにふさわしいかどうか、私も
判断つかないと、これは駄目ほう
和歌山一作という意味で「イカリスの翼」
という言葉を使ったほうがいい、という
にすぎない、今岡さんの方で決まるとい

ううてかあわないう話をして
おります。

この解説、装丁、タイトルをどういふ
うにするかということは、この五四年
五月六日の日に初めてあなたと今岡
さんの間では話にのぼったのです。

そうですね。

この太陽岡交点の単行本のことを
直接の目的としてね。電話があった
のはこの日から初めてです。

そうですね。

今までは別の電話のついたに話か
れたというのですか。

そうです。

それから初校が到着したのはいつですか。
五月一二日に私の手元に到着しま
した。

著者校正を終了して発送したのよ。

五月二二日に速達で発送しました。

その後タイトルが「太陽風交点」の発行
という)ことの正式な決定の通知はあり
ました。

一月六日に小松左京さんの解説の原
稿の二冊一冊が早川の方から送られて
きました。二冊でデテールにふて 間違
いが多いか 中エウクしてほしいうこと

ひしなのを それを讀みまゐりて 間違
 いのないという連絡を、私から今度
 さんの方になしおした。この時の
 タイトルは「太陽風交点」というので
 いく二とになつたと。大抵あつたとい
 う話を聞きました。

五四年八月六日の日の連絡を正式にタ
 イトルに「太陽風交点」になつたといふ
 通知を受けられた。

はい。

その後、この単行本「太陽風交点」に關
 して何かあつたの方に書類を送られて

さあしんか。

一〇月五日に発行の申込書が早川
書保から届きました。

丙才一号証の一、二を示す。

この丙才一号証の二の封筒に入って
丙才一号証の一が届いたわけですか。

そうです。

この届いたほかいつにか、もう一回言つて
下さい。

一〇月五日に和の平元に届きました。
五四年一〇月五日以前に早川書保から
何か書類を「太陽風交点」に関し、受
取ったことがあるのですか。

ありません

二れかあなれに討して正式な早川書房
からの文書というところですか、

はい。

丙子一筆証の一を見ますと 太陽風文

点を下記の通り 発行させていたにき、

右いと思ひます。 取急にお知らせ申し

と書くと書くと、下の四角い枠の中に

発行予定日五四年一月一五日 版数 初

版 発行数 七〇〇〇冊 書評寄贈用一〇〇冊

合計七一〇〇冊 定価一、二〇〇円 印税額

一〇パーセント 八四万円 支払予定日及び

予定額 才一回五四年一月三日二八万

才二回五五年一月七日ニ八万、才三回
五五年二月一日ニ八万と書かれ、お
き、この確定した発行予定日が
一月一日とか発行数とか印税、こ
うのは、あつたはこの書類を見、初め
と知ったのですか。

はい、そうです。

この文書の送られてくる前に、今周
から発行予定日はいつであるとか、発
行数、定価、印税、支払方法は、こ
うなりますよという、ことは事前には連絡
をとりたことありますか。

発行予定日に關してはさうと申し

あしなように、秋ころ、夏ころとか、あとい箇月くらいという連絡は受けました。それ以外は全く聞かぬことありません。

事前にあなれに相談されて、この数字が決まったらわけにはないですね。

はい、

早川書房の方で決定した内容をもつて発行させていたみたいという書面を送ってきた。

はい。

あなれと一はこの内容を見て、特別異存はあかつたのを承るか。

はい。
店頭には「太陽風文点」の単行本が並べ始
めたのはいつですか。

一〇月八日に並んで、そののを見ました。
それ以後に「太陽風文点」の増冊に關して
今岡さんから説明を受けたり、話を
受けたりすることがあります。

この「太陽風文点」が来て、まだないころ
です。が、一二月四日に会社の仕事で
出張した柳に東京を通るということがあ
りました。その時早く書信に寄
りました。今岡さんと少し話をし
た。この時はまだ直後で売れやうである

とか評判について、多少氣になつて
 ありまして、こんな様子からいへば
 と聞いたらわけです。それなら新人
 の作品としてはおあまたあつてソ子
 よりだといふ話でした。ついでに
 たかうちの本はあかぬか増冊には
 なりにくいといふ話もされたことを
 覚えておりました。

それ以後に増冊の話が会話にのつた
 ことかありあつたか、

昭和五五年六月一日(六)日にこの太陽

風交点からサトウのラジオトウマで

放送されたことかありまして、そうい

う話を電話でしてなりました時に
今岡さんの方から単行本の増冊に
ついて会議にありてみたけれども増
冊にならなかったという二とを聞
きあした。

単行本が発行された。今のような会話が
行なわれるおどろきに、今岡さんとあなた
との間で太陽風交点¹を又庫本で出す
水出すというような。又庫本という会
話が行なわれたことがありあすか。

ありません

単行本という前提の話をしていますか。
そうです。

次に文庫本「太陽風交点」にふて伺いま
す。昭和五五年一二月二日に細井
さんという早川書房の方があつたが家
に来たことはありませんか。

あります。

その二一日にやつて来るにあつて、事前
に伺いたいという連絡を細井さんから
連絡を受けたことはあります。

一二月一二日に細井さんから連絡が
ありまして、文庫本の「梅田地下オビッ
セイ」の発行の遅れにふて説明したい
ので大阪に行きたいという電話があ
りました。

それに付して あつたといふ答えたのひすか。

さういふ二とでわからぬおいていたた
く必要はないと答えました。

すると細井さんは何と答えましたか、

他に大阪に用事があるのといふ

二とでしれたので それでしれたといふ

二とで一二月二日に約束しました。

梅田地下オデッセイ 発行にふて遅れを

二とにふて説明したいといふ二とひすか。

さうひすか。

梅田地下オデッセイという文庫本を早川

書房で出す二とに決まつた日はいつひすか。

昭和五五年五月二日に前日から早川の

S F コニエストの選考というところで
 今岡さん初め何人かの人から大阪に
 ニラれておりまして。五月二日に私
 のニラに今岡さんと翻訳家の伊藤
 典夫さんが遊園に見えまして。その
 席上「梅田地下オプense」を中心に
 文庫本で作品集をおとめようと
 う話になりました。
 それで「梅田地下オプense」の原稿は
 送りました。

六月一七日に収録作品の二編につ
 いて改稿した原稿を送りました。
 あと収録予定の作品のリストをいれ

まーして、今岡さんの方に発送しあした。
今岡さんか受取ったから、発行予定に
ついて、今岡さんか連絡がありまし
たか。

受取ったという連絡の時にやはり
秋ころにあそという話がありまし
た。

その後秋ころに梅田地下オアシスの文
庫本が出版されたわけですね。

はい。

五五年一月一日に今岡さんから発
行にふたりの電話を受けれたことはあり
ませんか。

この時には発行が遅れて予定が
立たなくなつたという連絡を受け
ました。

その後更に発行にふて連絡を受け
たとはあります。

一。月二七日の
電話がありまして、年内には何と
か発行できるとなつたという
連絡を受けました。

と
ころか。

一二月四日朝七時ころ電話があり
まして、梅田地下オホソールの発行
が、又遅れる二とになつたと、却

刷屋に行つてソレに任せれば、却て刷屋に行つたきり、予定の立たなくやつてしまつたといふ連絡がありまして、年内発行は無理でしょうかと聞きまして、それによつて合からないと。却て刷屋の方に問い合わせると、それといふ連絡があつたわけですね。

一二月四日にさういふ連絡を受けたとき、いつに何らかの予定のよく合からない状態に陥つた。

ええ。

その事情説明に、細井さんがやつて来る

ことになつたわけですか、

はい、

あなは今岡さんのプライベートの理由として今岡さんを避けたりとか嫌うとかありますか。

特にそういうことはありません。

この細井さんがあなの方へ梅田地下オリエイルの事情説明にやって来るという二とは、とうとうきつかけからやって来る二とは休つたと、あなは思つておられますか。

細井さんからの電話に先立って

細井さんから「梅田地下オリエイル

とは別に「冷めたい方程式」について
電話がありました。その件で翻訳家
の伊藤典夫さんと電話で話したこ
とがあります。その時に梅田地
下オックスイの発行がすいぶん予定
がかわつて、どうなつてゐるのかよく
分からぬといふ話がありました。なり
づかひとしてあげるといふようには話
がありあつた。そのあと又「冷めたい
方程式」といふタイトルのアインシュタインのこ
とで一月二八日に伊藤典夫さんと
話をしました。その時フビに梅田
地下オックスイの発行が遅れており

エタ（エリ）から、事情説明のため
に一度大阪に行つた方がいいとい
うふうに細井さんにアトバイスを
しておいたといふことを聞きました。
ところが、そういふ二とがあつて、細
井さんが電話をかけてこられたん
だと思ひました。

その時に彼女は自費で行くんだから、
といふより説明を受けた。

何か私からいふん怒つてしまふように
とうれしうなように思ひました、伊藤
さんか、そういふうに受止めたい
なように、彼女は自費で行くんだ。

かり。そうつもりで応対してあげ

てほしいと。

五四年一月二日八日に。

ええ。

その前に一月二日に細井さんが同

いねいと言ってきたのは、伊藤さんから

アトバイスを受けながら来るんだとこ

の日に思ったと。

ええ。

五五年一月二日の二とにフイー詳く

聞かされた。この日は何曜日でしたか。

日曜日です。

細井さんは何曜日か。やうき来ましたか。

一二時五分に私のうちに電話があり
 あー、今新大阪駅に着いたから
 ニれからい、お伺いしますという、こと
 でした。それで私の家内は地下鉄
 の駅、中津駅まで歩之にあまーと
 午後二時半に私のうちにおいでに
 なりました。

何時に帰られまーにか。

四時半です。

四時半という二とは、どうも合
 いません。

午後五時に新阪急ホテルのロビーで
 人と係合らせているからと言われ

ましたのび、その時間に合わせよう
すをききました。

二時半から四時半まで二時間あなた
のところにいと。

ええ。

やへえ来たのから 田井さんはまあどうい
うな話から始めましたか。

私からさうさ、遠いところをおいで

いらたいて思縮みずと言いましたら

友達と合う予定もあるので寄り

ましたと話されました。

それで何かおみやげをくれましたか。

家の好物だと書いて 神田の漬物

亭のおせんべいをおみやげにいたれ、
ました。

そいう挨拶を——から、という話を
しましたか。

私のうちの居間で一〇分ほどせんべい
の事や雑談を——ありました。

それから「梅田地下オアソセイ」の発行
の隆れについて説明をなれました。

あす詳しい進行の日程をメモされ
て用紙を広げられまして、それに

従ってこいう順序に進めたりさ
んたという二点を説明されました。

で、主要要点として——は最初が

うかあるまでは予定通り進行して
いた。その後解説の原稿が非常に
長いものになりまして、頁数が変わ
るといふより二とになりましての
で、それで発行が遅れる二とにな
った。その後解説に原稿変更があ
つたりしてまた遅れた。特に遅れ
る原因となったのは地図であるとか
図面とか図版が非常に多いので
二の關係で印刷が大変遅れる
二とになったと。そういうふうな経
由説明をされました。

それがあつたは、その事情を了承した

のしるが。

はい。

それから続いてとんずら話か、アニソはジ
の件に關して何かおましたか。

その前電話か話をしとおりました。
冷たい方程式のアニソはジにフて

あの企画は中止になりましたとい
う連絡をされた。それは私も

一二月一二日に伊藤典夫さんから
聞いておりおたので、それは聞い

ておりおと返事をしました。

そこの話は、細井さんがあなただのう
ちにやって来た時から、瞬間に——とく

いっしょに。

大抵三〇分くらゐです。

その話も終ったのか三時ごろですか。

ええ。

その時あなたはビールを飲んでいられたの

ですか。

飲んでおりました。

いつごろから飲んでいられたのですか。

正確な時間を覚えていないのです

が、家内がお茶をいれた時に、私

はビールを飲むかやと、飲みました。

ビールは何本ぐらい飲みましたか。

中瓶二本位と思います。

その話の場には、たれとたれかゝあした
か。

私と細井さんと私の家内と。それ
が、當時二才三箇月の私の長
男がおりあした。

子供さん、奥さんは終始同席されとい
まはれた。

ええ。

三〇分くらい梅田地下オムレツの店とか
やって来た段段とかの店が終ったあと
は、どういふ話の話題にのほりましたか。

これは雑談です。からすいふんいろ
ん話の話題があつておりあした。すべ

て記憶してゐるわけじゃないんのか
思ひます——まゝにあげますと。まあ
家内が早川書房に勤務してあり
ました時の同僚であつたとか、知念
の方の消息とか、近況とか、今岡さん
の私行上の問題が東京では割合
公然の祕密というふうなことで噂
に振つていて、細井さんかいろいろお先
で仕事の話ありまして、そういうことを
聞かれるので、仕事をやりにくくて
困つてゐるとか、それから私のエネ
ルギー板出版戦線という二日前に
出版ばかりであつたので、それをお見せを

しなリSF作家の荒巻義雄さんが
個人的に選定しておられる あらまき賞
という賞があります。これに私の
作品が選ばれて 賞品として 新巻鮭
が一斤 届いたばかりであつたこととか
関西のSF作家の人達の近況である
とか東京の方の友人の作家がどう
いふふうにかとか、子供のこととか、い
ろいろ話をしておりました。
そういう雑誌はどのくらい時間誌されま
したか。

一時間くらいだと思います。

「時間くらゐ」雑誌が読いたあとで「太陽

風文点^レに因するところが話題にありましたか。
九種註の途中で突然一思ひあされたように
細井さんが。ところで太陽風変点^レ
の文庫本の予定はありですかと
聞かれました。いや今のところありません
せん。いいましたら、もし良かったら
来年の秋ごろに早い書係にいいれ
たいと思つてソレです。かと言われました。
私の方がそれはかまいませんけれども、
そうなりませうと。教丁 解説とかは
書いた方がいいでしょう。解説はそれ
しや。神やさん。かんべさんあたりに頼
んがみようかなという話をしました。

その「太陽風交点」の会話のやりとりは時間
に——このくらいです」が。

二、五分も少ないと思います。

そのおとは、どういふことか、話題にのほ
りま——に。

同じようなことで、雑談を——あります。

して、五時に新阪急ホテルで待ち合

わせを——と、さういふことで、うそ、かう

見える場所です。道順で、あそこか

さういふことを話——しております。

この日の会話の時に「太陽風交点」文庫と

いふことが、初めて会話に出たとです」が。

さうです。

この日以前にあらたと今岡さんとの間に
「太陽国交点」の文庫という二つに關して
の話というのほされたことはありますか。
ありません。

この細井さんが来た時の話の中で細井
さんの方から文庫の担当は細井に変わった
んだと、こういう説明をされたことはあ
りませんが、

いいえ来られて梅田地下オデッセイの
屋れの説明をされる前に実は文庫の
出版の担当は私であつて今岡にはあ
りません。右に今岡さんと私は雑誌
の仲などいろいろ電話をするんですが

多いので、連絡もろくに頼んでは、
便利に思うと思つて連絡を頼んでい
たと。それからは、初の方から連絡し
て、おや、という、話もありました。

文庫本「太陽風交点」は、五十年九月まで
に出版をするという、説明を細井さんには
したことがあり、おすか。

ありません。

堀晃は早川以外のお版社から「太陽
風交点」は出版しない、というよう、な
二とか、会話にあつたことがありますが、

ありません。

あし、早川、書房と、は「太陽風交

点レの又庫本の取扱作業に取りかかると
なという説明をされたことはあります。
ありません。

あなたには——細井さんから「太陽風文点レの
文庫化の予定はありますかと言ったあと
あなたの方ではそういう二とはなつてしまふで
すよという返事」をされたことはありますか。

いえ、言っておりません。

二の時点でもし将来、^{単行本}文庫本「太陽風文点レ
を増冊をするとか、文庫本の「太陽風文点レ
とある場合には、何箇所か誤植がある中で
訂正——なければいけないかと思っております
か。

この箇所は直さなければいけないと考
えておりおした。

この誤植の箇所の会話は細井さんとの
間話かあましたか。

あまありません。

訂正箇所はあいので、そのまゝ校正するよう
にしたいというところを、あいの細井さんに
説明されたことはあります。

いえ、ありません。

この細井さんとあいのとの会話は、どうい
うに、お趣旨の会話とあいの受とめて
いますか。

文庫出版の担当者として個人的に

そういう希望を持っておられ。私の
方にまず、打診されたの位と思いましたが、
こちらから正式に文庫にいらるゝことが
決まれば、正式に申し入れがあるものだ
と思つておりました。

本堂に「太陽風文庫」の文庫を早川の
方でやるつもりがあるなり。もっと具体的に
な、正式に申し入れがあるのううと思つていら
たうのですか。

そうです。

この日、細井さんは社用であいらのところにへ
来たいと思つてますが、社用でやつて来たついで
にあいらのところに寄つて来たいと思われ

ますか。

あくまでも個人的に考えられたと思ひ
ます。伊藤さん以外の人から細井
さんは彼女が自費で行ったんだという
話を聞きまして、今でも私は個人的
に考えたものかと思つております。

あなたと細井さんとの会話は自費で細井
さんは来られたという。雰囲気では話かされ
ておつたのでは。

はい。

(以上佐藤)

[illegible]

被告（堀 晃）代理人（松井）

才一回日本SF大賞に、あなただけ表わした「太陽風交点」が受賞されたのはいつですか。

昭和五十六年一月一四日に受賞の連絡を受けました。

日本SF大賞というのは、という賞ですか、簡単に説明して下さい。

その前年度に出版されたSFの中から優秀なものを一つ選んで表彰するもの、日本SF作家クラブが主催し、徳間書店の後援しているというものです。

換甲才ニ号記を示す

ここの三一三ページ「選評にかえて」ということ

て、日本SF大賞選考委員会代表小松左
京さんが、説明書きというんですかね、あと書
きのようなのを書きとありまして、そのあと
「日本SF大賞を認定するにあたり」とい
うのが三ページに書かれているんですか、こ
こに書かれているような内容か、日本SF大
賞の経緯といえますか。というふうにして
認定され、どのようなプロセスで選定され
るか、というんですか。

そうですね。

受賞直後、店頭には「太陽風交点大の
単行本はあつたんですよ」か。

私が見た限り、書店にはありません

でした。

あなたとしては、一刻も早く読者に読んでもらいたいだろうし、読者も読みたい状況だと思うんですが、この受賞直後に、田村川書房から「太陽風交点大」単行本を増刷したとか、「太陽風交点大」の文庫本を早急に出したいとかという申し入れは、あなたにありましたか。

いいえ、ありません。

具体的な「太陽風交点大」の出版に関する話は全然こなかったわけですね。

はい。

徳間書店からはありましたか。

一月一九日に徳田書店の久保寺さんから電話がありました。まあ、早川から増刷なんか話ばかりきいてなりたしようかという問い合せがありました。これは全くありません。で、書店にもないし、又、個人的に何かそういう問い合せも私の方か受けてまして、書店に見当らないものを困るという話をしました。もしそんなら、受賞作の店頭にないようだと困るから三月に徳田文庫に入りたい。発行したいと思うんだけれどもという打診がありました。それで、その時までは店頭には

全く本が見当りませんし、早川からのそ
 ういう話もありますし、今までのいきさ
 つから行きましたら、細井さんが秋に出
 したいというふうな打診はされておた
 んですけれども、従来の経過と見ま
 と、最初の本も一年以上、二冊目の「梅
 田地下オチワセイレ」という文庫も半年
 以上たつて、まだその時点でも発行さ
 れていない状態でしたので、やはり随分
 時間がかかるとわけておし、そへていう
 ふうな打診があるものでありますから、大変
 有難い話なので、お願いしたいと思つた
 存之ました。

あなただとしては、徳間書店から「太陽風交点」の文庫本を出したいと考へたわけですか。

けり。

その考へたに理由をもう一回整理してちょうと
言て下さい。

一番 私としては出したいと思つたのは、その時とて書店に本がないということ、それから増刷というふうな話は、前にもあまないう話がありましたが、その時とてそういう話は聞きませんでしたし、したがって、従来で経過から考へると、それから早川の方で準備しても随分時間がかかるんではないかと思ひました。

徳岡の方であしたいといふ気持ち強く
なりました。

早川書房から正式な発行の申し入れという
ようなこともないし、仮にあつても、今までの
「梅田地下オチッセイ」とか「太陽風交点」
の経緯からしても、遅れることはあはたとしては
予測してりたんで、徳岡にお願ひしたいと
思つたわけですか。

けい。

早川でなくて、徳岡からあすといふことに決
して誰かに相談したとてありますか。

このあと、久保寺さんか、電話かあつた
夜、何人かの方に電話で、こんな話か

あるんだけれどもというところは相談した
ことかありますけれども。徳岡の方かいい
んじやないかというふうな話かありま
した。

早川の出版に關する次女勢力というんですかね。
それに關して何か疑問を抱いてゐることもあつ
たんですか。

私のそれまでのいきさつとは別に、いろ
んな方から、いろいろな話を聞いたりあり
まして、出版姿勢自体もちょっと疑
問を感じてゐたことはあります。

五六年一月二一日に細井さんと電話話
されたことはありますか。

いえ、ありません。

五六年一月二日には、あなたの方で何か、細井さんに連絡したことはありますか。

徳岡の方からこういう話かきたというのと、特に早川の担当者、細井さんであるというところ、久保幸さんの方へ伝えておりましたので、一応、こういう話かきたというところを身にに入れておいた方がいいだろうと思っております。私は尺屋間、勤務関係でなかなか電話連絡はかたれませんので、私の方内に、こういう

話かきているところ、信じておいてほしいというところ、家内の方から、細井さんに

電話させました。

その電話話させた趣旨というのは、以前細井さんとの間にちがつと合話にのぼつたことかあるのを、個人的に一応、身に入れておこうという配慮かあるたんですか。

はい。

その五六年一月二日の夜、朝日新聞の大津知己記者という方が来られましたか。

朝日新聞の学芸部大江原一記者ですけれども、その方が受賞についてインタビューに来られて、その時の話ではインタビューする前に当然受賞作を読んでおく必要があるんだ

れとも。大阪の本屋五、六軒搜したけれ
とも。本一見当りなかつたと。で、書店
から肉い合せてもらうにだけれとも在
庫かないということだつたと。それを因
書館でSFマガジンのバックナンバー
をコピーして、それを読んできたという
ことで、雑誌のコピーを持てあられま
した。

翌日、昭和五十六年一月二三日ね。細井さん
からあはたに電話が入った。こはありませ
んか。

この日は夜一一時半位に、細井さんか
ら一電話がありました。太陽風交差点

と徳田文庫に入れられるそうだけれ
ども。一二月に行つた時にハヤカワ文庫
へ入れるという約束が来てゐるんじゃない
いかというふうなことを言われました。それ
で私としてはそういう打診があつたこと
は徳田の方へ伝えてありますと。それ
で、こういう話かきたということと。とりあ
えず個人的に連絡したんであつて。何
か徳田から出るのは困るというふうな
感入りのことを言われました。正式
にそういうことを申し入れとか何とか
の電話いらないというふうには言いまし
た。そうしたら、ともかく事が重大だか

う会社で会議を開いてからそちらへ
連絡するというふうには言われませんでした。

その後、あなたは方では徳岡書店との間
で契約を取り交わしたことはありますか。
一月二十四日に仮契約書が私の方の手
元へ届きました。

乙卯一号記の一を示す

これら徳岡書店から送られてきた仮契
約書です。

けり。そうです。

こういつに出版に関する契約書というか、
書類というのは、この書類以前に見た
ことありませんか。

いえ、ありません。

裏の第一条に出版権を認定、第二条排
他的・独占的使用と、こういう言葉が書
かれていふんです。こういう文字を見たこ
とは、この書類以前にありますか。

りえ、ありません。

こういう言葉をあなたに細井さんや今岡
さん、これより以前に説明受けたこ
とがありますか。

りえ、ありません。

出版権認定とか、排他的・独占的使用
という言葉より意味はこれを見て分かり
ましたか。

出版権という言葉と、排他的・独占的使用というのとは、という範囲を指すのか。私としてはちやんと分かりかねました。

この内容からある程度理解した日にはちやいづつですか。

一月二八日に大阪で、小松左京さんの五〇歳の誕生日を祝う会というのがあります。この会場へ徳岡の菅原さんと、前島さんかお見えになつてあります。この時に説明を受けました。

五六年の一月二六日に細井さんから何か電

話か ありませんでしたか。

これはやはり夜の一時半か一時頃
だつたと思ひますけれども、先日の件
で会社で会議を開いた結果、徳
田書店から「太陽月交点表」と出
版するとは認められぬというこ
とが会議で決まりましたという連
絡がありました。これは公衆西電
話からたづねらしくて、この新田位
りという連絡ばかりありまして西電
話は切れました。

五六年一月二十八日ね、小松左京の五〇五と
祝う会というのを開かれましたね。

はい。

その席上で今園さんと会われましたか。

はいました。

今園さんと何かこの文庫とか、太陽風交点大に關する話はしましたか。

はい。受賞や祝いの言ういたたいた位で、それ以外話してありません。

雑誌もしただけですか。

はい。

この間に会場で、徳間書店の前島不

二雄さん、菅原善雄さんと会われました

か。

はい。

とういうような話かあましたか。

何か二の時には、前日に早川書房の今岡さんから、何か徳間文庫へ太陽風交点大レを入れることは困るという抗議の手紙かきていふという話を聞きました。

先程の乙才一号記りの一の仮契約書といふのは、いつあぬたは記載して徳間の方に送りましたか。

一月二十九日、その翌日です。

文庫本「太陽風交点大レ」を出すに際して徳間書店を訪れて校正を行つたことはあります。

二月五日の午後に行いました。

その校正を行った時の校正箇所というのは、いくつありましたか。

三十九箇所です。

丙が二号証を示す

これは誰の作成した書類ですか。

私が作りました。

この五十六年四月二十五日には作ったんですか。
はい。

この三十九箇所は徳岡書店の本で訂正した時に発見されたことですか。

前から私自身が気が付いていたかと、校正の段階で気が付いたかと。

ありました。

二月五日の時点では三九の箇所というこ
とです。

ええ、そうですね。

それ以後一箇所に増えて、四〇の箇所にな
ったんですか。

これは明らかかな誤植と久保寺さん
の方が直されたところが一箇所ある
と思います。

昭和五六年二月一七日に、今岡さんからあ
たり方に電話がありましたか。

午後七時頃ですけれども、今岡さん
から電話がありました。早川書房

でも、太陽風交点大の文庫を今月中に出すことになったと。二月二十八日に文庫と出すことになりましたからという連絡がありました。それで。二月二十八日と言之は、もうあと一日程のことです。かなり大変なつくりしまして。そんなことから来るのをすかすか聞きましたら、写真真似版に据ったものを縮小するから出来るという返事でした。で、ただ一日後に出版というのは何かあると信じられないうような話なので、ともかくというふうには返事していいか、今からないけれども。とりあえず、そういう連絡が来たことは

承ておきまうというふうには答へました。

冥直 縮少版で出すということは「太陽月交
点」で単行本を冥直に據て小さくして文
庫に出すと、こういうことですね。

そういうことを思ひます。

そうすると、四〇箇所に近い誤植のままで
出てしまうという心配は抱きませんでしたか。
その瞬間には、そういうことを考へる余
裕もありませんでした。びっくりしただけ
なんですけれども、あと考へてありまして
もしそれか出るとしたら、全く誤りも
訂正してないものか出てしまうことにな
るのでは、これはちよつと大変なことにな

思いました。

それで、あのたとしては、とうとうかうな処置を
とりましたか。

二月一ね日に内容証明郵便で、その出
版は困るというところを申し入れました。

そのおすに当る誰かに相談したんですか。

私に判断をやったんですけれども、とりあ

えず、こんな話かまたというところを二月

二八日に徳岡書店の久保寺さんと電

話で話しまして、久保寺さんの方でも

まさか一日間一本か出来上がるという

ことは信じられないけれども、やはりあれ

だけきちんとして直したところがあるんだか

う。それは困るというこゝで伝えた方がいい
いんじゃないかという話はありました。

甲第一号証を示す

それで、誤植の多い作品が出たは困るという
のを、あはたかこの内容証明を今園さん宛
にあしたんですか。

そうですね。

内容的にはこういうことを書いたんですか。

あまりにも急な話で、ちよつとこういう
話は信じ難いし、出版は困るという
ことと、それから、文庫の出版の担当は
細井さんだというふうに聞いたりしたのを、
今園さんからこういう連絡があったのを

又担当の誰かちよとよく令からなくて、こつちか混乱しているということ、それから、何もかく解説とか装丁とかについて全く相談がないので、これも困ると、特に誤植訂正しないものが出るのは困ると、そういうことを書いてみました。

あと細井さんとの話について、

細井さんかそういう打診されたということはありました。それに、これについては徳岡書店の方へ伝えていまして、そういうことは、ついでには私は配慮しているつもりだ、というところを書いて添えました。

二の内容証明の書き方というのは誰かに

教えてもらうにですか。

二月一八日に郵便局へ行きまして、一応書き
方を聞きまして、その日の夜書きまして、二
月一九日に発送しました。

自今の意思を書き、発送したんですか。

はい。

この日は二月一九日に徳間書店の方に對して
正式な出版契約書というのを送ったこと
はありませんか。

はい。これは発行部数・定価等が決ま
りましたのを、それについての出版契約書
に判を押しまして発送しました。

乙才一号証の二を示す

これはその二月一九日以前に徳岡から受け
取りたいんですか。

二日程前に届いたと思います。

それを一九日に書き送り発送したと。

はい。

話ちよと戻りますか。甲才一号証の一、二の
内容証明。今出した結果。今岡さんから
何か返事の手紙がありましたか。

二月一九日に出しまして。それに対して二
月二十五日には内容証明で返事が届き
ました。

丙才三号証を示す

これはあのたり先程の甲才一号証に対する

返事ヲ通知するね。

そうですね。

これを見て あなたは とういうふう に 受け止め
ていましたか。

私が書きたことに対して 全く誤解され
ているんじゃないかと思ひました。特に契
約解除の申込みというふう に 解釈さ
れているのを。これは私もよく分らない
のを。何か契約といふことかあるんならう
一体 とういうことについで 言われているの
か とういふことと、それから。ともかく誤り
訂正する チャンス もないまま 文庫本
を發行する ようなことは。何とせやめ

てほしいという、この二点と、もう一度内
容証明郵便で発送しました。

甲才ニ号証を示す

丙才三号証の今園さんの返事では、いつも
前に出した甲才一号証がよく理解されて
ないんじゃないかということと、改めてこの甲
才ニ号証の内容証明郵便を出したんで
すか。

けり、そうです。

この趣旨は、こういうことか書いてあるわけに
すか。

三ふは、ともかくもし契約というふうな
ことで言われているなら、という内容な

のか提示してほしいといふことと。ともかく
誤植を訂正してないものはくれぐれも
出さないでくれと。この二点です。

二月二十六日に発送しましたね。

はい。

翌二月二十七日に、早川書房から何か書類
と送ってきたのですか。

連達で、文庫本「太陽風交点大」の
発行申込書が届きました。

丙才四号誌を示す

これかいつあはたり手元に届いたのですか。
二月二十七日です。

そうですね。あはたはとう受け止めたのですか。

今までは今園さんからの連絡であつて、且
 つ発行するということにつけても大変
 多岐な話で、半信半疑という気持ちだつ
 たんですけれども、正式に会社からこう
 いう発行申込書が来たので、実際に
 進行しているんじゃないかということも考
 へました。それから先に送った内容証
 明二通は今園さん宛に送ったわけであ
 りけれども、この時点でも担当者か誰
 であるか、それから発行の責任者が誰
 であるかとか、全く命令がないわけであ
 りまして、責任者の方に私が出した内容証明
 の内容が伝わらないんじゃないかとい

配になりまして、二通目と同じ内容
の内容証明郵便を、今度には早川書
房宛に二月二七日に発送しました。

甲第三号証を示す

今更には二通に抗議しているのに、正式な申込
書のみをたのみを驚き、今度には会社宛にあす
必要があるかと考へて、この甲第三号証を発送し
たと、こういうことですか。

そうですね。

この趣旨は今更に同じことですか。

二通目と同じです。

同じ五六年二月二七日の夜、太陽風交差し
の文庫に關して小松さんから何の連絡も受

けましたか。

夜一、二時頃に小松さんから電話があり
まして、今日の夕方、大阪の小松さんの
事務所へ早川書房の桜井専務
と今園さんが来られました。文庫の
「太陽は交点大」早川版の見本を持
ておられて、こういうものを作つてしま
つたので何とか出せるように調整して
くれなにかというふうな話かきたとい
うふうに連絡を受けました。で、最
初の話ですと二月二八日に出すとい
うふうな話を私聞いておりましたん
ですけれども、そう発行だけは延期

表 半 月
すゝように話を決めたという連絡か

小松さんかうありました。

三月に入ろ。あなたの方で徳岡の弁護士さん宛に委任状とか印鑑証明書みたいなものを送つた記憶ありますか。

三月七日ですけれども。とりあえず二月中に早川の文庫の書店に流れるというところは無くなつたんですけれどもやはりいつ書店に出るか今からないと、もしそういうことあるのなら直ぐに出版差止めなり仮処分の申請を行う必要があると思います。そういうことで私は大阪で昼間会社勤務を

やっております。なかなかそういうこと
 については動きがとれない事情があ
 りますので、徳田書店の弁護士の方
 生の方にそういう。もしそうなら場
 合の処置をお願いしたいということ
 委任状と、それから出版権の登録に
 必要な印鑑証明を送りました。

五月一日の三月一日に、今岡さんから何か
 電話を受けたことがありますか。

三月一日の午後ですけれども、私の仕
 事より出張先には、私の家内から電話
 してきてまして、今岡さんから何か電話
 かあつて、その日の午後七時頃に私の

うちへ西電話をかけるから。その時に
西電話に出ないと告訴に踏み切る。
からという連絡が来たというこゝで。
慌てて私の家内か西電話をかけたまま
した。で、一体どういうことなろうと
思いましてその日の夕方小松さんの事
務所に西電話を入れました。小松さん
か、明日つまり一二日で受け入れも。小
松さんと徳岡と、早川書房と、この三
者で話し合う予定をしているので
それに關してのことじゃないかというふ
うに説明されました。それで仕事と
余中で切り上げまして夕方自宅へ

帰りまして、午後七時頃に今園さんか
ら電話がありました。それで、明日
早川・徳岡・小松さんら三者で話し合
う予定としていて、あまればこの時に
和解をしたいと、その場合には、私の
印鑑が必要になるのだ。印鑑を小松
さんに預けてくれなにかと、そういうこ
とを言われました。その時間から
ですと小松さんに印鑑を届けるとい
うのはもう時間的にも無理ですし、
ただ一念タカウ電話でも、小松さん
に一切それじゃお願いしますというこ
と、全権を委任しているような形にな

つていふので、小松さん決定には私は
異議を唱えないから、ま、それでいい
んじゃないかというふうに伝えました。
そうしたら、今岡さんの方で、僕には一
体それというふうになるかは、今から
ないけれども、ともかく、そういうふうには
社の方へ伝えようという話でした。

五、六年前、三月一日に、あなたとしては小松さん
に何か交渉することかあれば、その交渉の
代理権を与えたところ、こういうことですね。
はい。

翌三月一二日に徳間書店と、早川書房
と、それから小松さん間で話し合いが持

たれたらしいんですか、それか、そのよう内容
であつたかというのを、あはたはいつ、誰から
連絡を受けましたか。

三月一三日に、徳岡の前島さんから
電話を受けまして、四月三日に何と
か早川叛の文庫を出す、それ
から徳岡からロイヤリティーを早
川へ支払うと、その二つの線と、
やう和解ということになりやうだ
と聞きまして、ただ、その日の会議
の席上で、早川から協定書とい
うのがあつたんだけれども、これは全
く承服しかねるような文章になつて

三者の納得行くような文書と徳
岡・早川双方の弁護士の面で作成
した上で調印するというふうに話
が決まったと。で、そのあたりに協定書
というものはコピーを送ったからと、そ
ういう話でした。

そのコピーの協定書というのは、いつあな
たのところへ届きましたか。

羽立日 知りどころへ届きました。

三月十四日。

けり。

甲 第四号証を示す

徳岡書店の前島さんから送られてきた

書類は二の甲が四号証のコピーですが、

けい。二のコピーに、問題になつた箇所
といふことを棒線か引いてありました。
問題になつた箇所は二の箇所ですか。

堀目先生の遺族は二重出版契約とい
う箇所。それから出版権侵害の
賠償金として、二の箇所。それから
発行した印刷部数掛ける三ペー
セント。三ペーセントというところ。そ
れから早川書房に持参して支払
うといふ箇所。二の四箇所が全く
承服出来ない箇所であるといふ
ことを説明してありました。

何か印しかつていたのですか。

棒組か引いてありました。

それ。それらの箇所をめぐって、田中川と徳
間という間。その後、交渉というか、連絡
というか、やりとりがあらたな様子で。

あとは弁護士間の話ということ。何か
まだうまく決まらぬというふうな話
が時々徳間の方から電話で連絡
がありましたけれども、具体的な
交渉の過程というのはよく知りま
せん。

五六年の三月二三日、徳間の久保寺さん
から何かこのことに関して連絡を受けた

んじやないですか。

この時は勤務先は久保寺さんから
多岐の電話ということで連絡があ
りまして、和解ということになつても
早川書房の方では、和解書とその
経過とSFマガジンに発表すると、で
それのためなようなら、その日の午後には
でも告訴に踏み切ると、記者発表
表を行くと、そういう話が出ている
という連絡がありました。
それで、あはたの作家として立場としては
いろいろこのことを説明しましたか。
随分もめているようないふともかく

最終的に私かというしても承服出来
ないといふ点として、違法な二重
出版という点所は認められたい
ということと、もしハヤカワ文庫があ
るんであれば正誤表を付けて欲しい
と、この二点を私の方から伝えまして
返事を待つというふうになりました。
そういう考えの下に、早川かというふう
に考えるか、早川側の対応を見るというこ
とになったんですか。

けい。

その後、結局この裁判になったわけですが、
この裁判が提起されたのはいつ知りました。

四月一五日夕方、読売新聞の記者が電話をかけたきまして、それでその提訴の事実を知りました。

今まで話し合いか、続行していたようなんですか、何ん裁判にたつたか、その理由というのは人分りですか。

私にはよく人分りません。

いやそれとは離れて、この出版に関する契約に關しての、あなたに知識をちよと聞いたら、おきたいんですか、徳間書店から複製の書というのを送られてきましたね、それと出版権設定とか、あるいは独占的排他的という文字を見ましたね。

けい。

それの意味を理解したうは、五六年一月
二八日に徳田書店の前島さんと菅原
さんかう説明を受け、理解したと言
いましたね。

けい。

それ以前には、この出版に關する契約的
な考へ方というものはあつたんですか。

いえ、ありません。

細井さんとか、今田さんから契約というよ
うな概念の説明というものは受けたこと
はありますか。

ありません。

出版権設定とか、独占的とか、排他的とか、
 そういう言葉も、今岡さんや、細井さんから
 聞かされたことはありますか。

ありません。

被告（徳岡書店）代理人（有藤）

丙才七号証を示す

一〇ページ、五十六年一月一日に徳岡の久
 保寺さんから電話があった。早川から増
 刊のある話はありませんかというところを言
 われたと。そういうことはありますね。

増刊の話かきているか。はい。

増刊なとりの話はありますかと聞かれたわ
 けですね。

はい。

この時やりとりが、いわゆる徳岡と文庫本
太陽風交点大の出版契約に關する初めの
のやりとりですね。

そうですね。

この時あなたはやりとりの中で久保孝が受賞
作の書店に並ばないようであれば徳岡文
庫に三月に発行することを検討しているの
ですかと、こういうことを言いましたね。

はい。

その時あなたも返事として、有難い話ですが
時間的に大丈夫でしょうか。こういうお返事
をしたと、そうですね。

はい。

そうしますと、時間的に間に合えば徳岡からの出版に添います。こういうことは、ニュースであっていきなり、そういうふうには受け取らないです。

時間的に間に合うというか、受賞が話題にならざるうちに本屋に並ぶとすれば大変有難いというふうには考えました。そうしますとね、早い書房からあたかも単行本カードカバーの本です。太陽月交点にこれかあおして、かういふ位たつて、三年以内です。よ。

はい。

五一年の。

一年二か月位だと思ひます。

一年三か月位か同ですよね。

けい。

その間にこういうことになるわけですか、早川
の方が先にあしてゐる本を、徳岡から出して
も差支えないというふうには解釈してゐた
んですか。

特に構はないんじゃないかと思ひました。

この前年の一二月二一日に細井さんか見えて
文庫本が話かちよつとあましたね。

けい。

それとの関連では如何ですか、そういう話

かあてゐるんだけとも。徳岡の方から出してむ
差支へないと思つていました。

特に構はないんじゃないかと思ひました。
構はないと思つたという理由は。

ともかくこの時点では、受賞作が全
く書店にないし、増冊等、話が全く
早川の方からありませんでしたから、出来
ればこの時点でなほ早く本屋に
並んでくれた方がいいというふうに考へ
ておりました。

そうすると、徳岡との出版契約、いわゆる版
権契約と称するものを五十六年一月二十九日
か二十九日です。

はい。調印しました。

調印していきまよね。

はい。

ところが一月の二六日に細井さんから電話が
あり、徳岡から文庫本を出すのは承
知出来ないという内容のここと言われたと
いうことですか。よろしくすね。

はい。

早川では承知出来ないというここと言われ
ていたのに、そのあとの時点である二九日に
徳岡との契約を結んでいるというこことなん
ですかね。反対を押し切るまで契約を
していいというふうには解釈していただい

うか。

一月二十六日の電話というのは、ともかく徳岡から来るのは認められたいと会議を決まうにと、それだけの一方的な連絡をして、その後文庫を出すとか、増冊するとかいう話もこの時点ではありませんでした。それから、早川書房からの私への直接の連絡というものは二月一七日まで全くありませんでした。ですから全くこの時点では書店に本が並ぶというよりは、まよふと考へられませんでした。徳岡の方からお願いしたいというふうには、考へたわけ

です。

徳間と契約をして出版しても、早川書房に譲る限り、譲る限りというのはおかしいんですか。早川書房との出版契約に違反するといふには、考えてなかつたんですね。

まず、契約といふことかよく分かつたか。つたんですけれども、徳間からきた版契約書を見ましたんでは、出版権の設定とか、排他的・独占的使用といふところが入っておりまして、一月二八日の段階では早川からこう言う打診はあつたといふことを伝へまして、ま

あ、もし将来ハヤカワ文庫からの話
かきた場合には、その担当者との意
思を尊重して、あけてほしいというこ
とは話しました。

その点大さ之、早川の方の事情を尊重す
れば、徳岡との出版契約をしても別段
契約違反にはならないというふうに考
えていたんですわ。

はい。

原告（早川書房）代理人（堀）

単行本の「太陽」交点、ありませうわ。

はい。

早川書房との間の出版に關する契約

ですけれども、これはいつ締結されたのか。
すか。

単行本の出版契約という事です。
そうです。

これは先程申しました事実かすへ
てでありまして、出版契約ということ
を特に聞いたことはありません。

そうすると、契約がないのに単行本が出
版されたのかも、あなたの方では、その印税
です。か。も受け取るという事になる
わけですか。

この発行の時点で、出版契約という
ことに對しての知識を私、ありま

せんでしたのて、発行から印税を受け
取るまでの経過というのは先程申し
ましたのとかすへてです。
そうすると、契約はしていいということに
なるわけですか。

この時点で出版契約ということに
なるのかということは、私はちよと判
断つきかねます。

命かかないわけですか。

はい。

あなたは二れまゝに何冊の本を発行されてお
りますか。

現在ですか。

現在、現時点まで。

文庫の「太陽風」交点大レを入れて六冊です。

六冊発行した今でも単行本の「太陽風」交点大レかいつの時点大レそのお大レ約か締結したかといふことは分らないわけですか。今の時点では私の解釈するのでした。10月5日に発行申込書がきまして、それに対して私が特に異議を申し立てずに、それでもいいといふふうに承した時点大レと思ひますけれども。そうすると10月5日以降、店頭に並んだのは10月8日です。からね、それまでの間

というふうにはあなたに考へてゐるわけですか。
 今から考へればさうなるんじゃないか
 と思ひます。

さうすると、それまで、恐らく一〇月五日の時
 点では、早川書房の方では、単行本の
 太陽月交点表というものは、もう既に刷
 り上がつてゐることは間違いないですわ。
 はい。

八日には店頭にも並んでゐるわけですか。さう
 ですか。

はい。

それまでは、初大分というものはなかつたとい
 うふうに考へるわけですか。

契約するといふか。出版されるといふ
ことと、印刷提で話が進んできたと思ひ
います。

そうですね。西女するに出版するといふ前提
で早川書房では印刷もし、あなたの方
では原稿も送り、更に著者校正をし
たりしていふわけですね。

はい。

それにもかかわらず、あなたの方では出版す
るといふ契約は、そうですね。こととをわづら
いにかかわらず、そうですね。時々はなかつたと
いふうちに考へていふわけですね。

まあ、そうですね。世に備は進んでいたと思

いますけれども、契約という意識は私
ありませんでした。

文庫本の「梅田地下オアツセイ」ですね。これ
も一応本として出しているわけですね。

けい。

これについては、いつ契約されたというふう
に理解されているわけですか。

やはり、この文庫に対して、発行の申
込書がきた時点だと感じます。け
れども。

一応、早川書房の方では、その二点だけで
すね。今また出している本では。

けい。そうですね。

乙才一号記より二を示す

徳間書店との関係での文庫本の「太陽
月交点」ですけれども、この昭和五六
年の二月十九日に、いわゆる本契約といふの
が作成されておりますね。

はい。

この時点であるといふふうに理解してい
るわけですか。

はい。

それで、あと徳間書店からもう一冊出し
ているといふ話でしたわ。

はい。

それは、この文庫本の「太陽月交点」より

もあとに出版されたわけですか。

あとです。

何月頃ですか。

五十六年の八月です。

これは確かかんべむさしさんとの共著でしたね。

はい、そうですね。

これについては契約書等は徳間書店と交わしているわけですか。

交わしております。

出版権や設定の登録はされてますか。
してありません。

それについても契約書を締結して、本

契約書と又締結すると。そういう二段階の構成といたすかね。それにならうかい。ふん、さうかい。

— いえ、これは本契約書だけですよ。
本契約書だけ。

はい。

それでは、ニリ文庫本より太陽風交点の
場合に、仮契約がある。更に本契約がある
というふうには、二段階の手順を踏んだ
のは何の理由があるんですか。

去年一月一日に久保孝三の方から
電話があった時には、徳岡書店と
しては出版契約書というのを絶

之を交わしていろと。とりあえず出版
の意思を確かめるためと。それから
徳田の方へは、又出版の意思を
持つていろと。これ確認するような意
味で、とりあえず原契約書を送る
というふうな話でした。

最初から本契約書にするのは、まだ
わけていますか。

その時までは、まだ発行部数・定
価が決まらなかったと聞いています。

そうすると、あなたの方の出版に
関する関係の理解では、発行部数
とか、そういうものが確定してい
ないと、本契約というものは結

へないし。出版の契約は結ばないし。

出版権設定契約といふのは、そういう
ことになるんじゃないかと思ひます。

出版権設定契約は、そういうことになると、
もうしゃない契約といふのは。

これは、二の裁判になつてから以降の
知識ですけれども、出版権許諾契
約といふものもあると思ひます。

それは別に部数とか、そういうのは決まつて
いなくてもいいし。

出版権許諾契約に關する契約書とい
うのは、私も見たことありません。どう
いう形式の契約になるのか、ちよつと今か

リマゼンけんとも。

集英社からも あなたは「恐怖症」という。
これは 文庫本ですわ。あしていらてやいますわ。

はい。

これは いった頃出版されたのですか。

五七年の四月です。

そうすると、これも 文庫本の「太陽風交点」
より あとというのですわ。

はい。

これか あなたかあーいある本の中は一番新
しい本と。そうなりまうか。

はい。そうですね。

集英社との間では いった頃契約されたんです

か。

これはやはり発行になる三週間前
にと思いいます。

それはどういう内容の契約ですか。

これは特に出版契約書というのを交
わしませんでした。これは集英社の方
から……

契約は交わしてないわけ。

はい。

口頭ですか。

出版権許諾契約だということと私
認しました。口頭ですけれども。

三週間前にそういうことがあったということ

です。

之を、そうですね。

集英社の方から、その時に初めて文庫本
を出したという話か、あつたわけですか。

リ之、文庫本を出したいという話は一
年以上前からありました。

そうですね。もう五六年の段階から、そういう
話はあつたわけですか。

はい。

それは「恐怖症」という、これは短編集です
ね。「太陽の交点」と同じような。

はい。

「恐怖症」という中に収録されている短編

を集めたものといひますかね、それを出した
という話だったわけですか。

最初には集英社から打診があったのは、
詳しい日付は記録を調べたいと
令かりませんけれども、昭和五六年一月
十日です。思いあしました。集英社の
担当の方から大阪まで来られまして、集英
社文庫で短編集を出したいとい
う打診をされました。最初です。
収録される短編についてはいは、これと、これと、
これをあしめたいとか、そういう特定したいな
ことはあつたんですか。

いえ、まだありません。

抽象的な。

り之、其の著者というもののとか、私の作品は
クリストを写すおられまして、このうち
かう作は収録したいという話でし
た。

それは「太陽風交点」ですわ。文庫本、単
行本、同じですけれども、その中に収録され
ている短編も、これと、これという。

いゝ、入るありません。

それは入らない。

けい。

そうすると、五十六年一月一日から文庫化の
実現といいきりかね。「恐怖症」という文

庫化の實現りために。おつと原稿を送つたり。校正をしたりと。そういうことが続いて行つていくのか。

集英社の文庫に因らるゝいきさつというのは詳しく整理してないんですけれども。

大体いいですよ。

最初に語りあつた時点では一冊令になる原稿がまだありませんでした。一応そり原稿が揃つた段階で話しようというこゝにはなりました。

原稿が揃つたのはいつ頃なんでしょうか。

昭和五六年の暮だと思ひます。

それで原稿を集英社の方に渡したわけですね。

そうですね。

あなたは先程、契約は発行された三週間前
ということですから、四月の初めか三月の終わ
り頃になろうかと思つておられるのも、その
頃、契約を締結したというように証言され
ましたね。

三週間前には集英社から、これこれ
こういう条件で発行したいという書状類
が届きまして、で、電話で、それで結
構ですという返事をしたのか、その位の
時期です。

集英社からきた通知といひますかね。それは大体内容的には目録の書庫からあるたう方に発行させていたと思います。ようは、大体内容的にはああいう内容のもうきたといふことですか。

書式は変わりましたが、内容としては、発行日、それから定価、部数、印税の率、それから支払いの条件といふうなことが書かれておりました。

それからもう一つありましたね。

「エネルギー出版戦争」作品社。

これについては契約書等は交わしていません。

ですか。

これは交わしてありません。

これも交わしていません。これは昭和五五年の何月頃お暇ですか。

一二月二〇日だと聞いています。

これについで同じようなことをお尋ねしますけれども、これについであなたは契約はいつ頃締結したんですか。

これは契約という話はありませんでした。これも契約という話かあなれを本はあちやつたというんですか。

これはまず順序として、その年の春に、作品社、取締役の方が見え

まして、私り作品につりて発行したいとい
う話もありまして、そんなら何度か
言ひまして、作品を煮詰めて行きま
して、あと八月頃には細かい条件を聞
かされまして、一応それら構いませんとい
う私か返事をいたしました。その時の
話では、作品の内容を定め、段階で
発行の期日をまた決めまして、それ
からその段階ではまだ印税の率、
それから発行部数、定価は決まらな
いと、営業会議というものがあつて決ま
るから、それが聞かれた時点で条件を
出しまして、返事としてほしいという話

かありました。一〇月頃には電話で、その会議の席上から私の家に電話がありました。細かい条件。つまり先程申しましたような。発行の期日、印税、部数、定価、支払いの条件等を私の方へ伝えられまして、それでは私は構いませんと返事をして、それによって発行されたというところであります。

そうすると、条件の提示があり、それで構いませんと、それ以前に、例之は原稿を渡すとか、あるいは校正をするとか、いうことはやられていたわけですか。

校正はその直前、原稿を渡すのも

その前に。

後に提出する。丙寅六月号誌を示す

あなたは一番早く初に「イカレスの羽翼」と
昭和四年の六月ですか。にSFマガジンに
掲載したと。

四五年の六月です。

これは間違っていますか。

いえ。執筆したのが四年の六月です。

執筆が四年の六月で、掲載は五年の
六月号ということですね。

けい。

これは初め、雑誌とか、いわゆる一般に発行
されている雑誌に書いた初め、の執筆とい

うこととお伺いしてよろしいわけですね。

はい。

それ以後、SFマガジンはじめ、大空想天外とか、SFアドベンチャーとかですね。雑誌に作^は載^はされてゐるわけですね。

はい。

早川書房の場合に、お伺いしますけれども、このSFマガジンの担当は、おなただったんですようか。まず、四五年六月号の段階から、^御ききよう。

これは当時、編集長でした木村ゆうさ^んです。

雑誌に掲載とす、という依頼といたしまして、かね

それはとばかりさるんですか。

小林さんか手紙か矢張りでした。

それであなはそれにオーケーをあして、四五年六月号に「イカレスの羽黒」が載ったと、どういふ経過なんですか。

はい。

どうして、早川書房の場合、SFマガジンに連載する場合には編集長からどういふ依頼かくるわけですか。

最初ありましたのは、小林さんからでした。それ以後は、

恐怖症」というのも小林さんです。それ以後、次にSFマガジンに載せたのは

「新増レポート」というレポートを載
せてありましたけれども、これは当時の
編集部（※）にいつじやつに小山さんとい
う方から依頼されました。

それは編集長とか、そういう人ではなくて、編
集部員というこゝとでですか。

そうですね。

その次の「暗黒星団」は、

これは今岡さんから電話がありました。
今岡さんは当時は編集長じゃなかったで
すか。

いやなかったと思ひます。

今岡さんが編集長になられたのは、あはた

の記憶ではいつ頃のことでしょう。

この削り証言で話された通りだった
と思います。ちよと細かい年月日は
忘れました。

「暗黒星団」以後は、大体SFマガジンの連
載関係は、主として今園さんが担当され
るようになさるべくわけですか。

今園さんからの連絡はほとんどたつた
と思います。

それは今園さんの編集長になられたあと
も変わらないうわけですか。

ほとんどそうですね。

そうですね。「暗黒星団」以降は、今園さん

か、あなたり担当まであるにというふうには考え
てよろしいわけでしょうか。

普通、他の出版社からですと、担当か
誰それですという正規の語があるん
ですけれども、S F マカシンの場合は、
ほとんどの場合、今岡さんか窓口でした
から、私から電話をかける場合もほ
とんどの場合、そういたしました。

今岡さんからという連絡か、これは、S F マ
カシンには、確実に載るといふ状況だった
わけですね。

そうですね。

その場合、早川書房名で、原稿依頼かく

るとか。そういうことはなかったわけですね。

原稿の依頼は大体電話だったと思

います。

電話で今岡さんが、今岡ですけれども、
で、何月のをお願いしますかということ
連絡をくれたということですか。

はい。

先程、徳間書店の代理の先生から、一月
二十九日に領契約をしていると、その以
前、一月二十九日に細井さんから、今社
の決定として、徳間から出版するのは承
知が来ているという連絡があったというこ
とですね。

はい。

その事實は間違いないわけですね。

けい。

二六日に早川書房の方から拒絶の連絡
かあつたにもかかわらず、一月二九日に仮契
約とした理由をもう一度言うつもりだけ
ですか。

一月二六日の電話というものは、かなり一
方的に早川書房で徳間との出版
か認められなないことか決まったとい
う通知だけだったものですから
私としては随分一方的で非常識
な連絡だなと困いました。で、その

あと、ですから徳田と仮契約するにわけますけれども、特にそれは問題ないと思われました。

揃わないと思つたわけですか。

はい。

一二月二日の段階で、早川書房の方でも文庫化すると、それにつきあはたの方も了承すると、そういう話をしていたわけでしょう。

一二月二日ですか。

細井さん、当時ですか。

細井さんは、そういうふうにあつたため、まあ、あの……

いりようというふうに言つたわけでしょう。
まあ構いませんけれどもというふうには
言いました。

そういうあれかあるにもかかわらず。一月
二九日に仮契約をするということでは、別に
悪いことも何でもないというふうに思
つていたわけですか。

一月二一日の話というものは、あくまでも
も個人的な担当者として打診
だと思つてありましたから。

あはたの方で個人的なあれだというふう
に考へていたのをあれは、どうして早川書
房の方にそういう確認はしなかつたのを

すか。

何てですか。

文庫本の「太陽風」交点表について、細井
さんの方から申し入れがあったけれども、これ
について、早川書房としてはどういふ
うに考えているんだとか。そういう確認と
か連絡というのは、全然しなかつたわけ
でしょう。

いや、まあ打診をされたというこゝで
すか。それ以降の話か。もし具
体的に早川の方で起つたなら、私のオ
ハ当然、そういう申し入れなりある
もんだと思ふところがありました。

あなただけ言う正式な申し入れといひますかね。
 あなたは繰り返して、正式な申し入れとか、
 どういうことを言われておりますけれども、
 よねは、どういふことをあなたにイメー
 ジされていふわけですか。

今までの出版について、ほとんどの場合
 どういふすけれども、まあ、本を出したら
 どういふだろうというふうなことから担当
 者同志で話か起こりまして、それ
 から、大体いつ頃、こういうふうな条
 件で、こんな作品を本にするというふ
 うな、もう少し具体的な話を持つて
 ころからという経過をたどりますか。

ら。作品名があつたり。発行期日か
きちんと決まつたり。そういう四つを具
体的な話に入ると思ひます。

あなたに理解では。そういうことかあれば
具體的な話であると。そういうふうは考
へるということですか。

はい。

太陽風交点大の場合。既にある単行
本を文庫化するという話なわけですから。
本の名前とか。しかもあなたに話によります
と。秋頃には出したという申しあかあつ
たということですから。あなたにおつしやとい
ふ西件というのは大体金部満たしている

んじやないですか。

り之。二の時。私かあやうかあるかといふことを確認したんたと思ひます。てすか。もう少し具体的にといふことであらう。期日はまだ決めずとか、甚だ丁度誰にすゝとかといふような話は当然にあとから来るものと思ひておりました。ただその時には解説も受けた方かいいたろうとかいふ話をあなたの方からされたんではない。

桂苑読み席にそういう話題かあたといふことですか。

あなたはあくまでも桂苑談だといふふうには解

秋してりたといふことですか。

はい。

一月一四日にSF大賞を受賞されますね。

はい。

そのあと、あなたの方のご託言では店頭に
単行本の「太陽風交点」が並んでいないと
いうことでしたわ。

はい。

あなたの方から早川書房に対して、その単
行本が在庫にあるのかどうか、あるいは
受買したのに店頭に並んでいないのはどう
いうわけがあるとか、あるいはその前年の一
月二日に個人的な、あなたの言いかたでは

個人的なことだと思ふということでしたけれども、細井さんの方から文庫化についでの話であつたわけですね。で、早川書房としては文庫化しないのかとか、そういう打診は全くしなかつたわけですね。

私の方からはしませんでした。

それは何か理由があるんですか。

私の場合新人ですし、単行本はその時点ではなかつたわけですからねとも売れるか、どうか、命かからないものに対して、あまり出してくれというふうには私の方からは言ひにくいという感じでした。

単行本はなかったと言いますけれども
在庫につけてあなただけでは確認され
たわけではないわけでしょう。

内い合せたけれども、ないという話を
聞きたわけですね。

誰かですか。

朝日新聞の記者であるとか、それ
か、神戸新聞の記者、いろいろ
な人です。

あなた自身では、とにかくあなたとしては
先程の話ですと、一刻も早く受当分の
話か人の口にはいつていふ間に出してほし
いと、そういうことは、ものすごく強くあつた

わけをしよう。

おまねは、その方がうれしいという気が
持てました。

だからこそ徳田の方からそういう話がある
場合、非常にうれしかつたというこ
とになるわけですね。

はい。

というところでは、単行本を發行してい
た早川書房に、その点について確認す
るのか、これは当然のことじゃないかと思っ
ておすけとね。

確認というのは何をですか、在庫の
ですか。

在庫り確認とか、あるいは重版をする
気はあるのか、とか、あるいはその文庫
とある気があるのか、とか。

これは江呂業より方針というものが
あるところから、私の方から出して
くれとか、増冊してくれというふうに連
絡するといふことは、ちよつとためらっ
ておりました。

要するに出してくるか、そういう西女望で
はなくて、出す気はないのかとか、そういう
確認もためらわれたわけですか。

私の方からは、特にこの受賞後の
一週間というのは、そういう事務的

なことをやる時間とか余裕かとても
ない程いろいろな雑件が立て混んで
ありましたから、特に私の方から連
絡はしませんでした。

ただあなたの方程のご記言では、徳岡
書店の方から、久保寿さんから一月九日
に文庫社にいろいろ打診があったというこ
とでしたね、それと、その点大にいろいろ何人
かの方に相談をしたと、そういうご記言
でしたね。

はい。

その中に早川書房は入っていないわけです
ね。

相談したといふのは、私の方へ電話がかかるときに、いろいろなことで話すことかあつたものをすかす、そのつりて、こんな話もきいてゐるだけねともといふような形で話したこともありまう。

常識的に考へますと、単行本を出してゐる出版社かあつて、それ以外の所から文庫化の話が来た場合には、その単行本とあつてゐる会社に対して一言、こういう事実があるといふことを通知するといふのは極めて当然のことじやないかと因心うんてすければともね。

けい、それは一月二二日に私の家内の
方から細井さんの方へ連絡させま
した。

あなたに徳間書店から文庫本の「太
陽日」を注文しをあるという意思因に固ま
つたのはいつ頃なんでしょうか。

一月の二八日です。

それは何か理由があるんでしょうか。

複製契約書といふのを見まして、いろい
ろ考えましたか、ちよつと分かつない
点かありまして、二、三徳間書店
の方へ質問して、一応了解が得られたの
で、二、三という条件をいいといふふう



判断して判を押しましたので、その時矣
です。

もう一度確認しますけれども、その決心する
に至るまでに、早川書房の方には、早川書
房の方で重版をするとか、文庫化する
とか、そういうこと一切確認も要求もし
ていないということですね。それは間違いな
いですね。

私からですか。はい、してありません。

早川書房の方から文庫化したいという
連絡があったんじゃないですか。

早川書房から連絡があったのは
二月一七日に、今月中に早川でも文

庫を占すことになったという連絡を受
け、二か月前です。

原告（早川書房）代理人（五十嵐）

細かいことは次回に聞きますけれども、一
点だけ、あなたに知識だけ確認させて下
さい。出版許諾契約と、出版権設定契
約というのはどこ違いますか。

今が知識でよろしいんですか。

はい。

出版権設定契約というのは、出版権
を契約結んだ相手によろると、出版
許諾の場合は、個別にその出版を認
めるといふ違いだと思います。

具体的にはどこか違うんですか。

許諾契約の場合ですと、複製数の出版社から出しても問題は無いと、且つ、出版権設定の場合には出版社側から買う義務を課せないと、いろいろの違いがあると思っております。基本的にはそうだと思っています。

先程あはたり出しているいろいろな著作物もありましたけれども、単行本の太陽風交点上、これは許諾契約ですか、設定契約ですか。

今、私に解釈では許諾契約じゃないかと思っております。

「梅田地下オナワセー」これは。

これも同様「許諾契約」と思っています。
徳間書店より今回「文庫本」は。

これは出版権設定契約だと思ひま
す。

それからもう一冊「徳間書店」方は。

出版権設定契約です。

集英社は。

「許諾契約」です。

「エスエルギ」叔父作戦」は。

「許諾契約」です。

集英社につき「口頭契約」で「許諾契約」
と申し入れたと先程言っていましたね。

い之、契約発行申込書かきた段階
 で電話で話しまして、出版契約書
 を交わした方がいんじやないかと担
 当の人に言いましたら、特に必要な
 いでしょうと、それでは出版権許諾
 契約と、私の方で解釈してよろしい
 ですかと言うと、そうですねというこ
 とでした。

そうですね。単行本「太陽風交点大」を例
 にとり申し上げますと、早川書房で例え
 は今年に出しますと、同時期に全く
 同一内容で徳田書店で同じものを
 出すと、これが許されると考えられるわけ

ですか。

法的には別に構わないしやないかと
思います。

「太陽風交点大」についても同じ。

はい。

集英社の「恐怖症」についても同じ。

はい。

それから「エネルギー」収束作戦」ですか。これ
もあはたの理解によると、契約書かな
いふしよ。許諾契約になるのかな。
はい。許諾契約だと思ひます。

そうすると、同時期に全く同じ本を別々の
会社から出して、もういいというのか、あは

にの解説になるわけですか。

且体的にどういう話か起るかという
かは、私の場合、ちやうと、人分かりませんの
で。

いや、あなたの場合、非常に近接してあて
いるわけでしょう。今回。

同時ということはありません。

もちろん、そうだけども、理屈の上ではあ
なたは、それは結構だと。どういうことだと
理解していると。こういうことですか。

はい。

いや、もう一つ聞きますか。ハイ、やりテ一
という言葉を、知っていますか。

いえ、知りませんでした。今の時点まで
しょうか。

ええ。

はい、聞いたことがあります。

今の時点まで、あなただけの解釈は、どうなること
いうことで、すけれども、当時執筆した時
それそれ、本に、太陽、交点、それ
れから、その地のもつ、執筆した時も
同時に、地の方で、おもしろいこと、こう考
えていたのですか。

そう、いうことを、考えたことは、ありません
でした。

全然、考えなかった。

はい。

一般的にはとうたと思ひましたか。

一般的にも考へたこともありませんで

した。

あはた、かんべむさしきんというのはお友達
ですか。

そうですね。

この人と何かそういうことにつりて話したことは
ありませんか。

いえ、ありません。

いや、作家仲間とこういうことにつりて話した
ことはありませんか。

ありません。

逆に、三年以内位はよその本屋ではあせない
もんだという話をしたことはありませんか。

ありません。

ないということは、いつでもあしていいもんだと
いう理解なのですか。それとも、何となく
あしちわいけないうかぬという。こういう感
いなのですか。

そういうことにつけて考えたことかあり
ませんでした。

今日この裁判にならしてみても、先程のように解
釈すると、こういうことですかね。

はい。

いや、ロイヤリティーというものは、当時知らな

ましたか。

知りません。

今日は知っておりますか。

一心言葉葉は知っております。

という意味ですか。

出版社同志で話し合いによる話
し合いをスミースに行うために支払わ
れるものだと聞いています。

何とスミースに行うんですか。

つまり複数の出版物があたり、それか
ら片方の出版物を片方の方に渡す
たりするとか、そういう……何と
言うんですか……出版権が片方に
設定して

ある場合には、け方であす場合に支払
われり料金であるとか……

徳間書店は、あなたの文庫本を出したい
という時に、早川書房にロイヤリティーの
支払いを申し入れた事実は知っていますか。
い之一知りません。

今もろ知りませんか。

ロイヤリティーを支払うというふうなこ
とを申し入れたという事は、私は聞いて
おりません。

全然一知りませんか。

協定書の文書を見てロイヤリティー
という言葉を知らしました。

ロイヤリティーとパーセントは別にして、支払うかどうかについても徳田書店はロイヤリティーを支払うといふことについてはオーケーだといふふうには聞いていませんか。

いえ、交渉の細かい過程は私は知りません。

先程協定書の話があった時に、ロイヤリティーのことはパリセンターは問題だけれども、その他の部分については問題ないといふうにあなたは徳田書店から聞いたといふふうに言っていますか。

その部分の問題になったといふことを聞きました。

徳田書店は二の場合 早川書房にロイヤリ
ティーというのを支払わなきゃいけないですか。
いや、今ありません。

全然今からない。

はい。

あんなの理解で先程の出版権許諾契約
ならはいらなんでしょう。法的には全くいらな
いというこゝにはなりまうね。同時に出版していい
わけですから。

はい。

その点はどう考えますか。

ケースバイケースじゃないかと思ひます。

という場合にはいい、というケースの場合に

は払わないですか。

つまり、何かそういうふうに もめた時にと
もかくいつまでも そういう 紛争を 長引か
せるよりは、ロイヤリティーの支払いというこ
とでスムーズに解決するのを あれば、支払
う場合があるんじゃないかと思ひます。

田中川 書房に だめだと言つた時に、その出版を
認めないと、こう言つて いるわけですね。で、それ
をスムーズに 解決する というのは、出版を認
めて もらうために 払うわけですか。

いえ、そうではないと思ひます。

いや、そういう意味ですか。

何か 双方の出版につけて、ともかく 意見が

食い違ふといふので、そういうことで双方の意見が一致するんであれば、それでいいんじゃないかと思ひますけれども。

被告（徳田書店）代理人（有藤）

今、ロイヤリティーという言葉を聞かれましたけれども、あなたはロイヤリティーという内容について、よく了解しているのか、それともよく了解していないのか、どちらですか。

よく了解ありません。

その程度を知っているわけですか、いわゆる出版社同士の調整事務と、その程度のこととは了解していますか。

そのようなものでないと思ひます。

そのようになつたと。その程度しか分らない
といふことですね。

はい。

霞速記

(以上青木)

速記者

佐藤篤子

速記者

青木かづ子

